

第6回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年8月5日(火) 18:30～ 20:00
- ◆ 開催場所 第1委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝
副部会長 渡部 雅子
部会員 山田 正幸
田中 寛志
稲葉 一彦
川島 雅司
松本 崇之
堀井 貴之 (市庁内検討委員会 部会長)
【総務部次長】
沼田 久人 (庁内検討委員会 副部会長)
【市総務部企画調整 G 総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 工藤 隆行
成田 育磨
- 事務局 【兼】沼田総括主幹、上野企画主幹、西川原主査、菊地主査
- ◆ 議題 「第6章担いあうまちづくり」に関する考え方及び体系図について

◎部会長

体系図で協働のまちづくり推進の要である基本条例に書かれている市民自治推進委員会について話し合っていきたいと思います。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

協働とはそもそも本当に必要なのか、協働とは何かというところを意識共有しないと体系図を話していくことは難しいと思います。

◎部会長

そこは、長くやられている方が肌で感じている部分を話していただければよいと思います。

様々な局面で何らかの形で皆さん関わっているかと思うのですが、すごく大きな話でびんと来なく、どうしたら本当に推進していけるのかと考えていると思います。

◎部会員

町内会は協働のまちづくりとして、市からの要望に対しては、三役はあらゆることに承諾をしている。

各单位町内会は、仕事が増えて大変だと言うが、必要なことだと思う。

行政は市民と協働のまちづくりとして、実施していることは何かを整理してほしい。

今は仕事が増えたという不満だけがたまっているので、協働のまちづくりにより、どのような財政効果などがあつたのか示してもらわないと、いい加減にしてくれ、ということになってしまう可能性がある。

そこを、基本計画の中にどう乗せるかが、すごくむずかしい。

◎部会員

町内会が、行政からお願いされて大変だという具体例はありますか。

◎部会員

指定管理者制度による会館の維持管理や除雪、ごみ処理の問題など基本的には自分たちのためだが「本来は行政がやるものだ」という感覚は強い。

何かあれば行政に連絡して処理してもらっていた、今はそうではない、自分たちでできることは自分たちで行う。

昔のように、なんでも行政に言えばいい、ということではないということは自覚している。

◎部会員

協働のまちづくりとは、基本条例をまだ市民がよくわかっていないというのが一番の問題だと思う。

要するに市民が自分たちでこのまちをつくるんだというのが協働のまちづくりとなっている。

それはわかってはいるけど浸透していかないというのが問題。

ちょっとしたところでも、自分たちでできることはやろうということが浸透すれば、何の苦勞もいらない。

そういう部分で、町内会の役員にしてもなぜこんなにやらされると思っているか、やってあげているんだという気持ちを持っていると、話は進まないと思う。

連合町内会の役員なり三役というのはある程度理解はしているけれど、それは市役所がやるのがふつうで当然だろうというところがあつて、それが一番問題だと思う。

◎部会員

ごみの有料化にしても、ごみステーションができて、その分別はその地域の人がやら

なければいけない。

散らかったら自分たちで片付けなさい、管理者は自分たちで決めてやりなさいというのがまさに協働のまちづくりなのだと思う。

◎部会員

その様なことが「仕事が増えた」という感覚を市民に与えてしまう。

◎市庁内部会部会長

私も町内会に参加しているが、町内会のみんなが忙しいかと尋ねられたら、必ずしもそうではない。

一部の役員しか動かないところが大変。

新たな人材も増えてこないので、結局特定の人に負担がかかってしまう。

◎部会員

その様な中でも、協働のまちづくりに取り組んでいる人たちも実際にいる。

◎部会員

それが協働のまちづくりなのですか。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

協働のまちづくりの定義は、難しいですので、まずは最初に部会員の皆さんで意識共有しようという話をしていましたが、最初にお話ししたのは、なぜ協働のまちづくりが必要なのかというところでした。

行政が集めた税金で、ごみステーションの管理を全部できれば、市民が参画しなくても、それはそれでまちづくりの一つだと思います。

ただし、行政で全部すべてを決めてしまって、まちをつくっていくのではなくて、市民の住んでいる人たちの思いを受け止めたうえで、もっとすみやすいまちにしなければならぬというのがまず根底にあるだと思います。

その思いを受けて、市民と行政の間で役割分担をしながら、「行政はここまでやるので、あとは市民でやりませんか」ですとか、もしくは「行政がここまでしかできません、それ以上を望むのであれば、自分たちでやってください。ただし支援はしますよ」という大きくは二種類なのかなと思っています。

行政がやるよりも、我々市民でやったほうがもっとよくできるなど、そのような方法もあると思います。

◎部会員

例えば、掃除は行政でやれるが何回もできない、であれば3回やるうちの2回は自分たちで掃除をする。

そうすれば、きれいにもなりますし、意識も高まることとなる。

◎市庁内部会副部長兼事務局

行政が全てを行って、ただこのまちに住んでいるではなく、自分たちもまちづくりに参加しているのだと思うことが大切なのかと思う。

例えばお祭りを開催するので、その参加者にも携わってもらいましょうとなれば、ただ参加するだけではなくて自分もその祭りに参加しているという意識付けが図られる。

この様なことが、協働のまちづくりのひとつだと思う。

◎市庁内部会部会長

町内会のクリーン作戦で、ゴミを拾ったという人は、その地域にゴミを投げなくなる。

小さい子供も参加してもらえると、ゴミを投げない子になるのかなと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

例えば、役割分担をして、行政はここまで市民はここからお願いしますというのも協働のまちづくりですし、このように計画を作りましょうということで、市民と行政が一緒になって協議をしながら策定するのも協働のまちづくりの一つだと思います。

◎部会員

そんなレベルのことを協働と言うのですか。

◎部会員

市民というのは大きく三種類に分かれるのだと思います。

一つ目は、ある程度自分を犠牲にしても地域のために一生懸命にやる人。

二つ目は、地域のために活動したいけど、仕事などの関係でなかなか参加する機会がない人。

三つ目は、地域の活動なんてまったく関係がない、役所がやることでなぜ我々がやるのかと一切参加しない人。

◎部会員

ちょっと感覚が違うかもしれないけど、役所がやってくれると思っている人は僕らの年代ではあまりいないのではないかな。

若い人は、仕事を退職した年寄りがやってくれるものだと思っている。

クリーン作戦なども良いことだと思っているけど出てこない人もたくさんいる。
それは仕方がないとも思う、自分たちも若いころはそうだった。
でも、自分の町内にごみが落ちていたら、それはいやですよ。
それは自分を含め町内の人が当たり前片づければいいのか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

たとえば、何十年も前だったら、そういう退職した人がやるという状況だったかもしれないです。

昔は、退職してから地域のことをやりたいという人が大勢いたのかもしれない。

私たちが歳をとったらそうなるのかなと思いつながり生きてきたので、協働のまちづくりと言わなくても、地域は地域で自分たちがやるという人が多かったのかもしれないが、今はそれが希薄になってきているのではないかと。

◎部会員

昔は近所で一緒に、というのがあったが、今は少なくなった。

◎部会員

他のまちに比べても、登別市は協働のまちづくりが進んでいるまちだと思います。
ただやる人とやらない人の差をどうやって縮めていくか。

◎部会員

町内会に入っていない人、たとえば市外から転入してアパートに住んでいる人は、どうしたらいいかわからない人も多いと思う。

◎部会員

協働のまちづくりをやっていく上で一番ネックになるのは、町内会活動を通して行う協働のまちづくりは、ボランティアなのですかと言う部分です。

冬の除雪については、お年寄りの家は地域が雪かきをしてあげるとか、自分たちでできることは自分たちだけでやるということで、雪道除雪検討委員会というのが開かれている。

その中で、有償ボランティアなのかという話が行政から出ていて話が進まない状況にある。

◎部会員

やらされている感覚があるから、有償対応が必要だという論議になってくる。

◎部会員

基本計画を作るにしても、そういったことまで配慮した計画を作っていないとならない。

◎部会員

金を払ったら何でもするのかというと思わないと思う。

◎部会員

本当にそんなレベルのことから掘り下げてやらないといけないのですか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

公園の維持管理とかも、やらされているという意見もある。

公園は市が直営で管理しているところもあるが、アダプトプログラムと言って、公園を自分たちの地域の子供だと思って、自分たちの子供を慈しむように管理する、それに必要な機材などは市で提供しますので、あとは自分たちで管理してくださいという制度があり、複数の町内会で行っている。

でも、町内会の中では、当然、自分たちでやるということもあれば、なぜ自分たちだと感じている人たちもいる。

それは、それを決めた町内会の役員とかではなく、そこに携わっていない人たちが感じているケースもあると思っています。

◎部会員

協働のまちづくりは特別なことではなくて、それは当たり前のことだと思う。

それは役割分担というか、そのようなことを協働のまちづくりはそこからだなどと言ってしまうと、すべてがお金だとか、何かやらなくてはいけないとか義務感になるのではないか。

なぜそこまで小さな話を計画の舞台に乗せなければいけないのか。

◎部会員

除雪した後も除雪の仕方が悪いと行政を呼んでやり直しさせるというのがしょっちゅう起きている。

雪をはねたままで出入り口をふさがれて、それをまた業者を呼ぶとお金がかかってしまう。

そこは自分たちでやりましょうという事だと思う。

◎部会員

ただ、年配者は大変ですよ。

それは、残していく業者が悪い。

あんな重いものをあそこに積まれたら、誰だって困る。

雪降っていたら外に出ない方はたくさんいる。

それは除雪業者のレベルではないか。

◎部会員

道道や国道はほとんどはねっばなしで、自分たちでやるしかない。

◎部会員

でも、そういったことを協働のまちづくりと言っていたら、どこまで進むのだろうか。

◎市庁内部会副会長兼事務局

自分の身の回りのことは、最低限のことは自分でやりなさいということを、計画に搭載して言わなければならない状態になっているのだと思います。

◎部会員

現実に市民のレベル、意識がそうなのだと思う。

そういうところに今、協働という柱を建ててののだが、極端な話、土台がぐちゃぐちゃなんだと思う。

そこから東石となりそうな人間をピックアップして、柱を何とか建てようとしているのが今の現実。

これから意識改革をして、協働のまちづくり、例えば自分の家のように道路をきれいにしましょうとか、そういう意識になるには100年とか50年かかるのではないか。

いつまでたってもこのままできないということだと思う。

ただし、今のまちはどうなっていくかという現実を認識をしながら、合理的にその柱の話をしていくのが現実なのかなと思う。

◎副会長

協働のまちづくりとは、雪はねだ何だということではないと思う。

もっと、どんな登別市を作るかということで、市民が中心にいて、行政と一緒に言うのが協働なのだと思う。

だから基本計画で改めて記載したという意味があると思う。

ですから、除雪がどうのだから、有償とかボランティアというのは違うと思う。

◎部会員

それを抜きにして、協働のまちづくりを考えようというのはいいと思う。
そんなこと囚われていたら、協働は絶対無理ではないか。

◎市庁内部会部会長

基本計画には除雪ですとか具体的なことは記載しないです。

◎部会員

しかし根深いところにはそれがある。
だからまとまらないし市民が動かないいうところに繋がっている。
それを前提とせず、別のものにしてもっと違う考え方はないか。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

シンプルに考えたら、このまちをより住みよいまちにするにはどうしたらいいのか、行政はなにを、市民はなにをという話ではないか。

◎部会員

でもそれは、あくまでもごみ拾いではなく、このまちをどうするかということですよ。

◎市庁内部会部会長

昔はよく税金さえ払っていけば全部行政がやってくれた、今後は考え方も変えていかな
いといけない。

◎部会員

そういう細かいところまで議員が率先して参加して行ってまとめていくシステムにしな
なければいけない。

普通の市民がやれることではない。何かの権限を持っている人たちがまとめていくとい
う組織づくりをしなかったら、こんな問題が山ほどあって、不平不満があって、誰が動く
のか。

ですから議員には見てほしいし、参加してほしいと思う。

◎部会員

基本計画の中の柱として、協働のまちづくりとは何かというのを市民にきちっと提案し
ないといけない。

◎部会員

それは、町内会で何をすべきかなどの単純なものをまず作ったらということなのか。

町内会に所属する人たちは何をすべきかということ、これは市民レベルの話ですよ。

私たちはこのまちからどうやってごみを無くしたりですとか、除雪もみんなが道路をスムーズに通行できるためにはどうすればいいのかということは別に考えるべきで、考える町内会が増えれば「笑顔が増える」様な取組みになる。

◎部会員

変な条例を作るよりは、登別市民である以上は町内会の会員であるという条例を作ったかどうか。

◎部会員

市民であれば、「自分の住んでいるところはきれいにすべき」と決めれば良い。

町内会でやってくれることでしょという風になってしまうから、なにか壁ができる。

転入届を提出するときに、市民のやることだと書いておけばいい。

それで、「ちゃんとやってくださいね」と伝えるほうがシンプルではないか。

町内会と言ってしまうから、町内会に入りたくなくなってしまう。

◎部会員

町内会という名前をなくせばいいのではないか。

登別市民であるうちは、自分たちのまちは自分たちでと、すべて全員がそういう意識でいれなければ、不公平がある。

◎部会員

取り組みが盛んなところは行政が入らないで、やらないところが行政はしかたなくやっていたら、公正公平ではない

◎部会員

行政は公平公正でなければならないから、ここだけ特別な扱いはできない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

行政はここまでしかしません。

あとは地域で考えてくださいとした方がまだシンプルなのかもしれない。

◎部会員

これからおそらく行政も協働を進めるといって、頓挫している市民自治推進委員会を發

足して、そこが市民に協働のまちづくりは何かということ、どう植えつけていくかということ、いろいろ議論してやっていくしかないと思う。

◎部会員

ここに書いてある言葉とか、役割がどうだとか、誰が考えても当たり前のこと。

市民の役割とか、市の役割とか、決めているけど、それ見ても当たり前のことが書かれていて、それが当たり前でない社会になってしまったのか。

◎市庁内部会部会長

サッカーのワールドカップで日本のサポーターがゴミ拾いをして、それを意識しているわけではないけれど、あれが当たり前のことに、自然にできるか、というところ。自分の地域は自分たちで。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

それで、他のまちとかは、協働の指針とかを作って協働とはかくあるべきだ、と文章にして、ただ市民と役所で作ったけれど、作った人たちはわかっているが、皆に配布しても何言っているのとなってしまう。

◎部会員

言葉が固いから、もっと柔らかくすればいい。

雪かきやりましょうとか。

自分の家の前はせめて自分でやりましょうとかですとか。

◎部会員

「何言ってるの」という人がいる、全部ではないと思うが。

◎部会員

当たり前のルールなのだと、説明すればいい。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

雪かきするまで延々と電話をかけてきてという人が現実ではいる。

◎部会員

それは本当に一部だよな。

そんな電話は警察ではないか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

たとえば、裏に山があって、その山の木が家にかかってきているから、どうしようか。

普通だったら自分で切るとか、土地を持っている人に言って切ってもらおうかと思うのですが、それをどの土地にも関係ない、役所に切れと言ってくる。

自分で連絡してくださいとなるが、このご時世では持ち主は教えられないので、法務局に行って調べてもらう。

そこでお金を払えばわかるがふつうの方はそこまでしない。

◎部会員

そういうときだけは教えるか、もしくは苦情が来ていることを連絡できないか。

◎部会員

それで、行政が行政がと市民が言う一つの原因となる。

◎市庁内部会副部長兼事務局

思うところがあっても、地権者などに直接言いたくないからこちらに言うてくる。

地権者にしても、なぜ行政が出てくるのかという話になる。

◎部会員

根本的に、そういうレベルの事をやっていると、協働のまちづくりなんて絶対無理だと思う。

◎市庁内部会部会長

全部行政が仕切るような流れが現実にはあるし、例えば災害の避難についても、全部役所が指示を出してくれると思っている方もいます。

どこまで市民が請け負ってくれるのか。

◎部会員

日々の生活をしていて、不便だからどうすると隣近所で集り、「じゃあ何とかするか」となるのではなくて、役所に対して何とかしろと言ってくる。

◎部会員

第一節にもあるのだが、協働のまちづくりの推進とうたってある以上は、今の状態の中でやっていっているのかどうか。

もっと協働のまちづくりについて誤解を解きながら、何をしなければいけないのかというところが見えてくれば、市民も意識を持つようになるのではないかと。

そういうものの明記が必要だと思う。

そのうえで何をやるかを検討しないと、目的を見失っているし、政策が全然ばらばらになってしまう。

◎市庁内部会副部長兼事務局

例えば、文化協会ですとか、そのようなところで様々な知識や経験をもった方がいて、その人が市民活動の中でいろいろな活動をして、それが好きでやっていると言われてしまうとそれまでですが、お金もそれほど貰わないでやっていて、技術をいろいろな人に教えてあげたりですとか、そのような活動が広がっていけば、文化のレベルは上がることとなる。

そのような取組みも協働のまちづくりの一つだと思います。

行政がやるのではなくて、市民が自らの活動が増えればいいと思います、そうなればまちが良くなると思っています。

そこに協働のまちづくりがあるのだと思います。

協働とは、なぜやらなければならないのかというのは、いいまちにしたいためにそれぞれがやる。

そこでは、自分たちが活かせる能力を活かす、役所は役所で得意分野がありますし、市民は市民でありますので、それぞれの役割分担の中で、同じ目標である「いいまちにしたい」という目標に突き進むのが協働だと僕は思います。

◎部会員

体系図を見てみると、まちづくり基本条例の推進ではなくて、条例の理解が必要ではないか。

◎部会員

理解は必要ないのではないか、こういう堅苦しいことを理解させようとするから、一層難しくなるのではないか。

ただ問題なのは、解釈の仕方であって、解釈の仕方によっては考え方が分かれる。

◎市庁内部会副部長兼事務局

条例は市民が作ったもので、役所が一方向的に作ったものではないですね。

◎部会員

条例とは基本的にこういうものであって、あとは、条例のような堅苦しいものを理解させるのではなくて、単純に市民は、自分の住んでいるまちをどう良くしていくのかだとか、単純な話にしたい。

◎部会員

まず自分でできることは自分でやりましょう、行政でなければできないことは行政が聞きましょう、双方で協力してやることは協力してやりましょう。

難しく考えてしまうから、はまっていく。

このぐらいの簡単な考え方でいいのではないだろうか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

細かいことをわかっていないと、大きなことも言えないのだと思う。

◎市庁内部会部会長

どのように市民に浸透させていくかを考えて方向性を作りたい。

◎部会員

この前の国会で話題となった集団自衛権の問題のように、同じ内容であっても受け止め方は人それぞれなのが難しいところだと思う。

◎部会員

意外と常識とは変わってしまう部分がある、何とかそういう協議はできないものか、昔の当たり前でなかったことが今は当たり前になっているぐらい時代は変わってきている。

◎市庁内部会副部長兼事務局

条例に記載されている条例の中身、気持ちというか心というか、そのようなものを理解してもらえればいいと思う。

そういうことを役所的にいうと、まちづくり基本条例の計画とか、そうになってしまうし。

◎副部長

しかし、この中には自己決定、自己責任、自分でできることは自分ですると書いてあるので、市民の考え方を完全に一致させるのは無理であって、市民や行政の中に一人でもそういう人を増やしていくのが大事なのではないか。

◎部会員

今からこうやって行きましょうとすぐできる話ではなく、大きなテーマなので、徐々に意識を変えていくしかない。

◎副部長

条例制定当時も、議会は議会でもまちづくり条例に基づいた論議をしたのだと思う。

だけど、行政は行政で、市民は市民で考えやっとなら完成した。
経過はいろいろ大変だったと思うが、この部会に議会を入れてはだめなのか。

◎部会員

それぞれの部会長名で、こういう会議をやっているのだから、「ぜひ参加して意見を言ってくださいね」でいいのではないかな。

◎部会員

議決権のある人が参加することは好ましくない。

◎副部会長

議決権を持っている議員がこの場に来て、基本計画が実際に議案として上程された時に議会としての扱いが難しいということですね。

◎部会員

でもそれは、議員の方々も自分はいこう思っていると市民を説得して、こんなにいいことができるんだ、どうですかと言うことは悪いことなのではないかな。

あくまでもこの部会は議員を巻き込んで決めるわけではなくて、提言を取りまとめるときに議員は必要ないわけで、興味があれば、参加して我々の意見を聞いてみませんかという体裁の案内を出してもいいのではないかなと思う。

何でもやってみないと、今の状況はおかしいのではないかな。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

この部会は行政が設置しているので役所が任命して役所が主としてやっていることだから、市民として参加してもらってはいるが、あくまでも役所の組織で分離しなければならないことも存在する。

◎市庁内部会部会長

役所が考え方を決めるために皆さんの意見を反映させたいということで参加している。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

たとえば町内会とかで議員さんと呼んで話をするというのは別に全然かまわない。

◎部会員

体系図の黒い太線から左の部分は変えられないではないかな。

◎市庁内部会副部長兼事務局

当然変えられないことはありません。

基本的に体系図として提言してもらうのは黒線から左と説明させてもらっていますが、黒線から右の部分で、この書き方では足りないでしょうというのは言っていたきたい。

◎部会員

例えば、政策としての協働のまちづくりの推進はいいのだけど、その場合、若い人が愛着を持てるようなまちを作ろう、高齢者が安心して生活できるまちを作りましょう、働き甲斐のあるまちにしましょうとか、そういう具体的なところをやっていくと、それすなわち協働のまちづくりになっていくと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

そのとおりだと思います。

ただし、いろいろなご意見を頂いた中で、高齢者が働きやすいまちづくりを進めましょうと書くのはこの部会が担当している章ではなくて、第3章にありますので、そういう調整はしなければならないと思います。

協働のまちづくりを推進するうえで、基本計画の中でそういう考え方を持たなければだめだというのは提言としていただいて、ここに書くか、またはどこに書くか、もしかすると書けないかもしれないしとなる。

ただ、高齢者が住みよいまちづくりをするためには、じゃあどうしたらいいのか、それは部会で考えなければならない。

◎部会員

協働のまちづくりは何かと言っていくと前へ進まないから、具体策の中に協働のまちづくりに入っていないければ推進できないようなことを入れたらいい。

◎市庁内部会副部長兼事務局

こういう課題を解決するために協働のまちづくりは必要なのだということを言うていくのはいいと思う。

なので、協働のまちづくりとは必要なと問われて、「だから必要なんです」、「進めなければならないです」というのを言ってもらえるのはいいと思います。

その方が現実的かもしれない。その現実的な話からさっき言ったような話になっている。

このように行った方がこのまちはもっとよくなるということを考えた方がいいのかもしれない。

役所だけでやるよりもこうやってやったほうがいいんじゃないのと。

もし別に役所に任せればいいという考えの市民しか、このまちにはいないのだとし

たら協働のまちづくりはいらなくなると思う。

◎市庁内部会部会長

市民のボランティア活動などがなかったら寂しいまちになると思う。

今回の祭りもそうだけど、夏祭りも自分たちでやったりするのが、まちの活気を生み出すのであって、行政だけで実施するというのは変なのかなと思います。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

それこそ、ゆめみーるみたいに地域食堂ですよと運営していますが、行政であるような取組みをとればなかなか同じようには運営ができない。

一部の地域の人々の為だけにあの取組みを構築できるのか、ほかのところにも作って欲しいとなるから、行政はなかなか手が出せない。

でも、地域の人々のために何かやりましょうということで市民が NPO を立ち上げてあのような取組みをやるというのはまさに協働なのだと思う。

たとえば高齢者が生きがいをもって暮らしていくためには、あのような場が必要だとか独居にならないようにするために必要だとか、そのためにきめ細やかにやっていくのであれば市民と行政と協働でやらなければだめだねとそういう風に思う。

◎部会員

行政でできることには限度があると思う。

その解消のために協働のまちづくりは必要だと思うし、それをどこかに記載してもらえると、老人福祉の事業とかも、行政だと難しくても民間だとすんなりできる。

そういう出来ないところを民間が実施し、行政が助けてくれるというものも一つだと思う。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

極端な言い方かもしれないけど、狭い地域の中を住みよくして、その積み重ねでまち全体がよくなるのだとしたら、行政は動きにくい。

その地域だけと限定して実施する行政はできない、先ほども言った公平公正という考え方がある。

一か所にやったら全体に一人にやったら全員にやらなければならないのが基本的な考え方なので、そのサービスが必要であってもなくても全員にやらなければ、何をしているんだとなってしまう。

◎部会員

ただ、NPO とか、ゆめみーるだってすごく儲かっているわけではない。

商売で儲けてやろうと思ったら、年寄りが気軽に来られるような価格にはならないだろうし、長居したらうるさいと言われるだろうし。

やはり NPO は儲けようという組織ではない。

当然利潤は出るだろうけど、自分たちが儲けるためにやっているわけではない。

そういう団体とも、行政は手を出せないからお願いしますねと言われて、じゃあ自分たちのためにやろうか、でもそれは好きでやっているのかと言ったら、やはり使命感があるのだと思う。

◎部会員

登別でどのようなまちづくりをしたいかという思いを、一度みんなで考えて出して、それを実現するために何をやればいいのか、そういうのも一つの方法。

積み重ねていった結果、こういうまちができる。

10年間先を見越した案というより、まず根本的にこの登別をどういったまちにしようとしているかというのがなければ、まとまらないような気がする。

◎市庁内部会副部長兼事務局

どんなまちにしたいかって語るには、今登別がどういう状態なのだというのを念頭において話をしなければいけない。

◎部会員

旧大滝村の村長が、年寄りを集めると当時老人ホームをあちこちに作った。

何故かと言うと、年寄りが来たら若い人もくるだろうという感じだった。

◎部会員

のぼりべつなら、10年も15年も遅いのだけどケアハウスとかができました。

◎部会員

自分のまちをどうしたいか。

何を目標にするかがわかっていないといけない。

◎部会員

おそらく、頭の中にあってもここで言えないことはたくさんあると思う。

それをざっくばらんに出してもらって、皆がいいねとなれば、それでは我々は何をすればいいのというのも必要だと思う。

◎部会員

コミュニケーション力がまちづくり推進に必要だと思う。

先ほど話題になったボランティア的なことをやるにしても、コミュニケーションが取れてない。

はっきり言って話せばわかることってたくさんあると思うので、ただお互いに意地を張っているというか。そのために一つの目標にたいしてお互いに汗をかくといったきっかけがあると、意外と理解をしてもらえと思う。

今は地域でもなかなか声もかけづらい、逆に声をかけたら変なおじさんみたいに思われたりして、民生委員をやっている、高齢者の関係も聞くが、周りからどう見られるかを考えながら行動することを意識しなければならない。

そういう問題が合っても話しかけるのはコミュニケーションが必要だからやっている。

わかることによってできることがある、推進委員会はそういうことだと思う。

結局コミュニケーションが大前提で、お互い知ることが必要であって、そこを行政としてどういうアプローチで、市民としてどういうことができるのか、議員はどうできるのかと考えていきたい。

その器というか土俵づくりをできれば、まずはいいのではないかな。

難しいと言ってしまうえばそれまでだけど、ただ一つ一つやるべきことはそれほど難しい議題ではない、要はそれをどうコーディネートして形にするかということだと思う。

そこも話してみて、そういうことを考えているとわかる。お互いがそうだと思います。

こういう場をどう作るか、こういうきっかけをどう作るかが、自治推進委員会だと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

次回、みなさんそれぞれがこのまちをどうしたいのかを聞かせていただきたいと思いません。

たとえば私で言えば、住んでいることが当たり前といいますか、他のまちの話を聞いても、いいことやっているなど感じて、でも別に自分はこのまちでいいと思えるまちがよいと思っています。

ただ、うちのまちがもっと一層思えるためには何をすればいいのかと思う。それにはもちろん行政でもいろいろな施策に取り組まなければいけないですし、子供がいる人もいれば、働いている人もいれば、病気の方もいれば、歳にとって動けなくなっている人もいれば、どのような環境の方でも、死ぬまで住んでいられると思えるようなまちづくりをしていかなければならない。

それには細かいところからやっていかなければならない、そのための施策は何か、事業は何かといろいろ考えながら行っている。

これは次回の宿題にして考えてきていただいて、文章にまとめられるのであれば、文章で提出してもらってもいいですし、熱く語ってもらってもいいと思います。

◎副部長

私たちだけでなく、職員のお話しも聞きたい。

◎市庁内部会副部長兼事務局

せっかく若い職員もいるので、そのようにしましょう。

◎部会員

「汗をかかないといけない」、ある議員がサポーターシステムを作るとき、どう思うと聞かれて答えたのは、「あなたたちが一生懸命やって、汗かいている後ろ姿を見せれば、市民は黙っても応援しますよ、何か手伝いますか」と。

まずあなたたちが汗かかなければならないよと話をした。

それは、人に言うだけでなく、私たちが自らそういうことをやっていく、少なくともこのテーブルにいる以上は、お互い汗をかきながらまとめていかないと答えが出ないのかなと皆さんの話を聞いていて思う。

◎部会員

小さいかもしれないけど市民にやらせるべきことはやってもらってと、一人ひとりが細かいところを植えつけさせていかないと、これは変わっていかない。

そこをうまい具合に行政で考えていくのがいい。

◎部会員

さっきの話ではないけど、町内会は年寄りのものだと思ってしまっている。

だから働いている現役の人は、町内会になんて参加しなくていいと思っている。

転勤族の人たちはその場限りだろう。

◎部会員

転勤族とはいっても大手ですよ。銀行だとか。

◎部会員

町内会には入れという強制力は何もない。

◎部会員

転入届が入ったときに、自分の周りは自分でごみを拾う、雪はかく、市民として当たり前のことですから、これをお願いしますねと伝える。

はいわかりましたでいいと思うのです。

それで、広報紙で定期的に同じものを見せる。

それしかできない、それ以上のことをやったって無理です。
個人的な考えを持っているから。
だけど、どこかでやらなければいけない。
転入する人たちにこれを見せて、それが登別市民ですと。
そういうことを常に見えるところでやることが大事。
できない人がいるとか、やらない人がいるとか、そういうことじゃない。

◎部会員

ある町内会で、読書会を行った。
いろいろ考えて、入っている人もいない人も同じ扱いをした。
そうしたら、入らないとまずいよねとなって町内会にみんな入った。
入らないから別扱いみたいにするのではなくて、同じ扱いをしてあげるのも一つの考えかただと思う。

◎部会員

転勤族だろうがなんだろうが、市に住んでいる人が当たり前のこと、常識だと思う、一社会人としては。

◎部会員

そういう風に思わせることが大事なのではないか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

それもちよっと、何か提言として書きましようか。
こういうことを書いて、行政は意識付けするべきじゃないのかと。

◎部会員

そういうのもある意味、細かいことを言ってしまうと、まちづくりととらえられるし。

◎市庁内部会副部長兼事務局

宿題は、理想のこのまちがどういう風になってほしいかというのと、このまちの市民がどうなってほしいか、どういう市民でいてほしいか、という二本立てで行った方がいいのかもしれない。

どういう市民が暮らしてほしいか。どういう市民が多くいてほしいか。

◎部会員

でもさ、きれいなところにゴミは戻らない。

◎部会員

春に行く国道の掃除とか、缶とかたくさんあります。

◎市庁内部会副部長兼事務局

雪が解けたら、職員総出で登別の駅前から温泉上がっていくまで掃除するんですよ。すごいですよ、冷蔵庫とかわけのわからないものが落ちている。

◎事務局

今回は、どういうまちにしたいかと、登別の市民はどうあってほしいかで行います。8月28日の予定で、場所もここをおさえています。

◎部会長

では、そういうことで、課題も出ておりますので、楽しみながらじっくり考えてきていただいて、熱弁をふるっていただきたいと思います。

◎市庁内部会副部長兼事務局

それは違うと言いませんので、自由に考えてみてください。